2019年6月11日施行

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　理事会制定

　　　　　　　　一般財団法人

全日本大学バレーボール連盟危機管理内規

(目的)

第1条　全日本大学バレーボール連盟（以下「連盟」という。）　が主催する競技会(地区学連含む)及び講習会・研修会等における危機管理(自然災害、停電、感染症、及び大会中の事故)に対して適切に対応することを目的とする。

(安全対策)

第2条　連盟は危機管理者を決め、事業開始までに危機管理者は、対応法を事前に関係者と密に連絡を取り、安全が確保されるよう、次の事項について確認すること。

　2　危機管理者及び危機管理担当者は、避難経路、対応等を必ずチーム役員、観客等に周知すること。特に観客には会場アナウンス等で安全対応を知らせる方法を確認すること。

1)自然災害等の対応

　 　　避難経路、避難場所の確認、誘導(動線)の方法を明確にして、選手、チーム役員、観客の安全を確保する。特に地震・津波については、公共施設の場合は、施設管理者の指示に従って誘導等の補助を行う。学校施設の場合は、土曜日、日曜日は担当者が手薄の場合があるので、事前に避難場所の確認と共に、避難経路図等を入手しておくこと。災害が発生した場合は気象庁及び関係自治体からのニュース(指示)等を収集して適切に対応すること。

1. ビーチバレーボールの安全管理
2. 落雷への対応

落雷警報発令時は、気象庁等の信頼できる情報を的確に入手し、選手、役員及び観客の安全を第一に捉え、落雷の危険があると判断した場合は、速やかに試合等を中断し、既設の屋根がある建物内や車両内に避難させる。

ロ)熱中症対策

　　　選手、役員、観客に対して、水分補給に努め、日陰で風通しのよい場所をあらかじめ確保すること。選手に熱中症の疑いが見られた場合は、試合の続行について選手及びチーム役員に確認し、適切に対応する。

1. 光化学スモック等の対応

　　　 競技の開始の有無、中断や再開の判断は、気象情報を的確に入手し、地方自治体や消防署などの意見を参考に、適切に対応する。

2)火災対策

　　　　火災報知器が作動した場合は出火場所を確認し、試合等を中断し避難方向を知らせ、煙が発生している場合は姿勢を低くし、ハンカチ等で口と鼻を抑えることを指示する。

　　　初期消火が可能なのであれば、消火器等で消火に努める。

3)停電対策

　　避難経路、避難場所の確認、誘導(動線)の方法を選手、チーム役員、観客に周知する方法を明確にしておくこと。

(緊急対応)

第3条　傷病者発生時の大会本部対応

2 大会本部の緊急対応責任者は大会前にトレーナー資格者を集め対応について周知徹底をおこなう。

1)感染症・伝染病対策(インフルエンザ・ノロウィルス等)

罹患者の隔離や消毒など施設管理者と連絡し、選手、チーム役員、観客の安全を確保する。また、医療機関や保健所からの情報を収集して適切に対応する。

2)急病人・怪我人の手当て

施設管理者に連絡して、応急手当ができる部屋を確保する。また、事前に施設の救急体制及び救急医療機関をチェックし、施設管理者に連絡し、救急車要請を行うこと。救急車要請時対応シートを別に定める。

3)AEDと救急用担架の設置場所を事前に確認すること。

4)緊急マニュアル別に定める。

(競技場の安全管理)

第4条　コート面の安全管理

1. 会場管理者と連絡を取り、事前に会場施設・設備の安全性をチェックする等の適切に対応する。
2. 大会前の施設・設備等(用具)のチェックリスト確認表を別に定める表に従って確認すること。
3. ビーチバレーボールコートの砂の温度を随時確認し、高温による火傷等を事前に防ぐため、コート面への放水などの対応を的確に行うこと。
4. 砂が高温になる恐れがある場合には火傷予防のために選手にサンドソックスを積極的に着用させる。
5. 傷病者が発生した時には、大会主催者に協力してチームトレーナーが応急手当に当たる。

(その他の対応)

第5条　保険の加入について、開催要項等に、傷害保険の加入及び担保内容を明記すること。

第6条　大会要項及びプログラムに避難経路略図等を掲載すること。

第7条　競技会及び講習会・研修会等の中断、中止、再開、延期等について、安全を最優先し、速やかに判断・伝達をすること。

第8条　全日本大学バレーボール連盟施設・用器具等のチェックリストを6ケ月保存すること。

(改廃)

第9条　この内規の改廃は、この連盟の理事会の決議を経て行うものとする。

**全日本大学バレーボール連盟施設・用具等のチェックリスト**

全日本大学バレーボール連盟及び各地区学連主催の競技会、講習会、研修会の開催責任者は危機管理の観点から、観客、チーム、役員の安全を確保するために、施設、用具等のチェックリストに従って点検を行ってください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **チェック場所** | **確認** | **チェック内容** |
| 競技場 | した・なし | 避難所及び避難所までの動線(観客・チーム・役員等)及び観客・チーム・役員等の入退場口の確認をしたか |
| ある・ない | 駐車場 |
| ある・ない | 医務室・AED・担架 |
| 競技場、講習会・  研修会コート  (練習コート含む) | 過ぎる・普通 | 床面が滑り過ぎるか |
| 悪い・普通 | 床面の滑りが悪いか |
| ある・ない | 反り・浮き・目違いがあるか |
| ある・ない | 木栓の(だぼ)の浮き、ぬけがあるか |
| ある・ない | 床鳴りするところがあるか |
| ある・ない | ゆるみ・たるみ・浮き・ずれがあるか |
| ある・ない | 器具等のぐらつきがあるか |
| ある・ない | 応急手当用医療物品 |
|  |  |
| ビーチバレーボールコート | ある・ない | ガラス片、空き缶、小石、貝殻等があるか |
| ある・ない | 飲料水・氷嚢(ビニール袋)・氷 |
|  | した・なし | コート周りのフェンスの安全の確認をしたか |
| 施設・用具 | ある・ない | 審判台・ボール・ネット等に不具合があるか |
| ある・ない | 選手控え室 |
| ある・ない | 役員控え室 |
| ある・ない | トイレ |
|  |  |  |
| 救急指定病院 | した・なし | 救急指定病院を確認したか |
| 開催地で必要な  チェック場所 | した・なし | 津波の危険度の高い施設では避難方法を確認したか |
| ある・ない | 応急手当に必要な材料 |

※その他のチェックコメント

チェック年月日　　　20　　年　　　月　　　　日

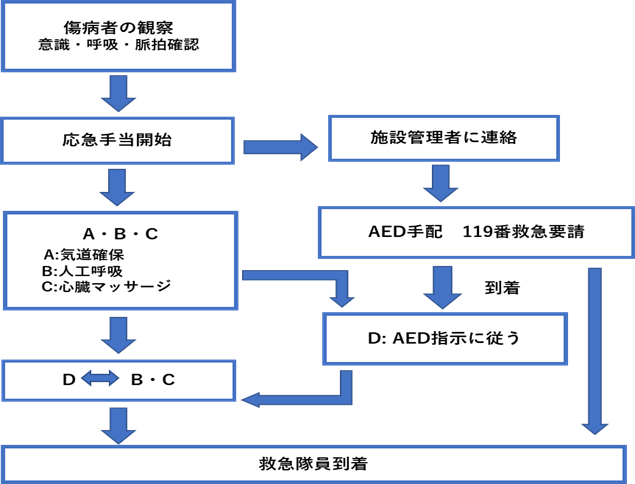
大会競技・講習会・研修会名

大会競技・講習会・研修会場所

チェック者名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

**1.競技会場における主な応急手当**

**応急手当及び救急要請の手順**

※心臓マッサージ30回に人口呼吸2回の割合で続ける。1人なら心臓マッサージだけでよい。

救急隊員・医師が到着まで手当を行う。

**2.応急処置のために競技会場内に用意すべきもの**

1)**大会主催者が用意すべきもの**

温湿度計、携帯型担架、AED、血圧計、体温計、氷水、消毒セット(創傷用)滅菌ガーゼ、脱脂綿、ペーパータオル、ラップ、ビニール手袋、ビニール袋、目薬、白ワセリン、絆創膏、包帯類、創傷被覆材、ハサミ、爪切り、ペンライト、ピンセット、コールドスプレー(冷却剤)、液体石鹸、角巾、バスタオル、捻挫・骨折用シーネ、

**※出来れば会場にハンドマイクを置くことが望ましい。**

2)**チームが用意すべきもの**

1. チームとして携帯するべきもの

氷水、消毒セット(創傷用)滅菌ガーゼ、脱脂綿、バンドエイド・弾性包帯、体温計、ペーパータオル、テーピングテープ各種(伸縮、非伸縮、アンダーラップ)、ビニール袋、サポーター、湿布薬

1. できれば揃えておきたいもの

三角巾、創傷被覆材、ハサミ、爪切り、ペンライト、ピンセット、コールドスプレー、消炎鎮痛剤、

胃腸薬、整腸剤、目薬、虫刺され薬、日焼け止め、(薬剤はドーピング禁止の含まれないもの)

**※チーム内に少なくとも1名は救命救急講習会等の受講者(トレーナー)が帯同することが望ましい。**



**2.競技会場における災害発生の対応手順**

災害(地震・火災・水害)等が発生した場合は試合を直ちに中止し、現状の把握を速やかに行い、館内放送等(放送ができない場合には大声)で避難行動等の指示を行う。

**①　地震発生直後の行動**

**むやみに移動せず、とにかく身体を守るよう館内放送を行う。(勝手な行動すると混乱を招くので注意喚起する。)**

**。**

**。**

**周囲を見渡し、安全な場所へ誘導する。(落下物やガラス、飛散物等から離れる。)**

**余裕があれば出入り口、避難通路のドアを開ける。**

**周囲にけが人がいないか大声で確認する。負傷者が出た場合は救護活動をおこなう。**

**②　火災発生時の行動**

**火災報知器が作動した場合は出火場所の確認をする。**

**発生場所が近くの場合は火災報知機を押す。**

**大声で「火事だと叫び」試合等を中断し、出火場所を告げ、逃げる方向を知らせる。**

**➀逃げる時は煙を吸わないようにハンカチ等で鼻と口を抑える。**

**②室内は壁伝いに、廊下は中央を低い姿勢で移動する。**

**初期消火が可能であれば消火器等で消火に努める。**

**負傷者が出た場合救護活動をおこなう。**

**③　風水害時の行動**

**風水害は事前に情報が収集出来るので、危険性が少しでも懸念される時は早めに行事(試合・各種講習会)を中止等の処置を行う。**

**予想のできない、短時間猛烈な豪雨に見舞われ、競技会場等が浸水や土砂崩れに遭遇し、避難が余儀なくされた時は動きやすく安全な格好で避難場所に移動するように誘導する。**

**するようにように。**

**避難時は水位(深さ)、足元に十分注意し、一人では行動しないことを注意喚起する。**

**避難場所が遠い場所にあり真っ暗で、すでに浸水しているなど、避難所へ行くのが困難な時は、近くの3階以上の建物に一時避難するように指示する。**

**④　家族への連絡方法**

**災害用伝言ダイヤルのかけ方**

**伝言の再生**

**伝言の録音**

**へ電話をかける**

**ガイダンスが流れる**

**171**

➀

②

1

2

市外局番✙

被害地電話番号

③

市外局番✙

自宅電話番号

**3.災害が発生した場合の館内放送等　(例)**

　➀公共施設の場合は、施設管理者から指示の館内放送等有るので、学連役員は大声で選手、チーム役員、観客の誘導等の補助を行う。

　②学校施設で学校関係者・警備員等の施設放送による指示がある場合には、学連役員は試合等を中断させて大声で選手、チーム役員、観客の誘導等の補助を行う。

**③施設管理者との事前の打ち合わせで、学連が災害時の選手、チーム役員、観客に避難等の連絡を行う場合の放送の手順。**

**a)地震発生時の館内放送手順**

**放送1**

**・只今地震が発生しました。**

・試合を中断してください。

・館内の皆さんは、落下物や窓ガラス、飛散物等に注意して、身の安全を確保して下さい。

・勝手な行動すると混乱を招き、ケガ等が発生しますので、こちらの連絡があるまで、その場所で待機して下さい。

**b)火災発生時の館内放送手順**

**放送1**

**・只今火災報知器が作動しています。**

・発生場所を確認中です。

・試合を中断してください。

・誤作動でしたので、ご安心ください。

・試合を再開します。

**放送2**

**・発生場所は〇○○です。**

・安全確認中ですので次の連絡があるまでその場に待機して下さい。

・安全が確認できましたので試合を再開いたします。

・煙が発生していますので、口と鼻をハンカチ等で押さえて、低い姿勢で誘導者の指示に従って、避難してください。

**放送3**

**・安否確認及び負傷者確認**

**・**避難場所で、大声で「負傷した方はいませんか。」と呼び掛ける。

**・**連絡の取れない方はいませんか。

**c)風水害発生時の館内放送の手順**

**放送1**

**・短時間豪雨により、この建物が浸水の危険性が懸念されますので、避難をお願いします。**

・避難所は○○です。学生役員が誘導しますので指示に従ってください。

・避難時は水位(深さ)、足元に十分注意して行動してください。

・単独行動は大変危険ですのでおやめください。

**放送2**

**・安否確認及び負傷者確認**

**・**避難場所で、大声で「負傷した方はいませんか。」と呼び掛ける。

**・**連絡の取れない方はいませんか。